

鶴見大学仏教文化研究所紀要第10号・雑纂

雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	10
ページ	191-201
発行年	2005-04
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000457/



平成十六年度 仏教文化研究所活動報告

〔第一回運営委員会〕

日時 平成十六年四月五日（水）午後四時～

場所 六号館二階 仏教文化研究所共同研究室

内容 ○平成十六年度予算の確認

○平成十六年度事業計画（総持学園創立八十周年・仏教文化研究所設立十周年記念シンポジウム開催）
承認

○平成十六年度運営委員会の確認

○平成十六年度所員の役割分担承認

○研究員委嘱更新の確認

木村清孝氏、佐藤達全氏、計良隆世氏

参加者 高崎直道所長、矢島道彦主任、大三輪龍彦所員、永田勝久所員、河野真知郎所員、石田千尋所員、
岩橋春樹所員、小林恭治所員、尾崎正善所員

〔総持学園創立八十周年記念・鶴見大学仏教文化研究所設立十周年記念 公開シンポジウム開催〕

日時 平成十七年十一月六日（土）午後一時～

場所 鶴見大学会館地下階 メインホール

〔第一回研究会〕

メインテーマ 『瑩山禪と曹洞宗史』——新たなアプローチを目指して——

日時 平成十六年七月二十二日（木）午後四時～

場所 仏教文化研究所共同研究室

一、発表者・題目 佐藤達全研究員「仏教保育とは何か」

① 仏教保育とは

仏教の世界観・人生観を基本にした保育活動のことである。

② 仏教保育の位置づけ

仏教保育は幼稚園教諭免許状や保育士資格取得のための必修科目として法的に位置づけられたものでなく、仏教系の大学（短大）や保育現場に限定されている。そのため、学生の関心は高くない。そこで、カリキュラム上での位置づけ（建学の精神）や講義の進め方が重要になる。

③ 仏教保育の持つ意味

仏教と保育を繋ぐキーワードは「いのち」である。つまり、保育の原点（乳幼児の生命を保護してその発達を援助する）を考える上で、仏教の世界観や生命観（縁起・三法印等）から、多くの示唆が得られる。

④ 現代社会と仏教保育

生命が軽視されがちな現代社会において、仏教保育の果たすべき役割はきわめて大きい。仏教系の養成校や保育現場という枠にとらわれず、「いのち」をキーワードにして情報発信すべきである。

二、発表者・題目 尾崎正善所員「曹洞宗の門派の展開と本末関係——即庵派を中心として——」

曹洞宗の展開と門派の関係について、特に即庵派を中心に考察した。この派については、延享二年（一七四五）に編集された『延享度曹洞宗寺院本末牒』とそれ以前の寛永十二年（一六三五）成立の『曹洞宗通幻派本末記』諸宗本末帳・巻十四に記される本末関係に大きな問題を含んでいることが判明した。それら相違点を中心にして、本末の展開とその問題点を明らかにする事により、曹洞宗教団史の一側面を考察した。

さらに、即庵派の展開の中でも下野国山川長林寺の歴史を振り返りながら、曹洞宗の本末関係のみならず諸寺院の住持の相互の関係について、今まであまり使用されることの無かった『住山記』の史料に基づいて考察を加えた。そこから、現在は廃寺となっている樺崎地区の諸寺院の実情なども浮かび上がってきた。

三、学会報告

Indo-Japan Seminar on Buddhist Philosophy with Special Reference to the Thoughts and Works of Professor Hajime Nakamura (March 11~13, 2004 New Delhi)

出張者 矢島道彦主任

概要

この国際学会（「日印仏教哲学セミナー」）は、インド哲学研究会議 (Indian Council of Philosophical Research)、財団法人東方研究会、国際交流基金の三者による共同開催で、特に本学顧問教授も務められた中村元博士（平成十一年十月十日逝去）の業績を顕彰する目的で開催された。日本からは、東方研究会を代表して前田専学東方学院院长夫妻、三木純子東方研究会理事兼総務（中村博士令嬢）、奈良康明駒沢大学総長が参加したほか、日野紹運岐阜薬科大学教授（ヴェーダーンタ哲学）、信州大学の茂木秀淳教授（サーンキヤ哲学）、名古屋大学の和田寿弘教授（インド論理学）、それに鶴見大学の矢島（ジャイナ教）の四名が派遣されて、そ

それぞれの専門分野について中村博士の業績を論じた。三日間の期間中、全部で十二のセッションが生まれ、各国の研究者がさまざまな立場から中村博士の業績を顕彰した。バニヤン樹にも喩えられる博士の学問世界の壮大さをあらためて痛感させられるセミナーであった。報告書は現在印刷中で、まもなくインドの出版社から刊行される。

(注) 右の報告書は、その後次のような形で出版された。

Buddhist Thought and Culture, Indo-Japan Seminar on Buddhist Philosophy with Special Reference to the Thoughts and Works of Professor Hajime Nakamura, edited by S. R. Bhatt, Delhi: Originals 2005.

参加者 高崎直道所長、矢島道彦主任、尾崎正善所員、小林恭治所員、佐藤達全研究員、関口博巨先生

〔記事〕

○アスギリヤ大精舎派の僧侶団の来訪と「介護センター」建設への協力要請

平成十六年十一月十三日、スリランカ国よりのAsgiriyā Maha Vihāraya (アスギリヤ大精舎派)の僧侶団(事務局長 Warakawe Dhammaloka師を代表とする僧四名、スリランカ大使館通訳、技術者二名の計七名)が本学を訪れ、高崎所長、矢島主任、尾崎所員と懇談した。この中で、現在キャンデイ市に建設中の「病僧介護センター」について紹介があり、設備面での資金協力を要請されたが、これに対して高崎所長は、計画に関わる趣意書や見積書等の提示を待ってから検討したいと回答した。アスギリヤ大精舎派は、スリランカの仏

教諸派のなかでも、人里離れた森林地域を修行道場とする「森林所住比丘」の流れを汲んでいる。それゆえ、現代的なホスピスや終末期医療の実施に当たっても、都市部の施設を利用することへの抵抗感が強く、同派独自の施設をキャンディ市郊外の丘陵部に建設したい意向のようである。

※この件については、その後暮れに大使館員から書類を送付したとの連絡が入り、明けて平成十七年一月、学長あての書類一式（介護センターの経費見積概算を含んだ英文と日本文の趣意書、CD-Rom付）が郵送されてきた。

研究所概要

〔所在地〕 〒二三〇八五〇一 横浜市鶴見区鶴見二丁目三 鶴見大学内

TEL 〇四五五八一―一〇〇一 FAX 〇四五五七四―〇二二五

(担当事務部：文学部事務部庶務課)

〔所長〕 柳澤 慧二 鶴見大学学長 (生理学)

〔主任〕 矢島 道彦 短期大学部教授 (宗教学)

〔所員〕 大三輪 龍彦 文学部教授 (日本史)

永田 勝久 文学部教授 (化学)

河野 眞知郎 文学部教授 (文化人類学・考古学)

関 幸彦 文学部教授 (歴史学)

石田 千尋 文学部教授 (美術史)

岩橋 春樹 文学部教授 (美学・美術史)

小林 恭治 文学部助教授 (日本語)

尾崎 正善 文学部助教授 (宗教学)

関根 透 文学部教授 (倫理学)

〔研究員〕 木村 清孝

佐藤 達全

計良 隆世

〔顧問〕 高崎 直道 (鶴見大学名誉教授)

納富 常天 (大本山總持寺宝物殿館長)

鶴見大学仏教文化研究所規程

(設置)

第一条 鶴見大学に、鶴見大学仏教文化研究所（以下「研究所」という。）を置く。

(目的)

第二条 研究所は、鶴見大学の建学の精神に則り、日本における仏教文化を中心に、広く仏教と文化に関する研究を推進し、学術の発展に寄与することを目的とする。

(研究内容等)

第三条 研究所は、前条の目的を達成するために次のことを行なう。

- 一 宗教学等の教授内容としての諸宗教の比較、仏教教理、曹洞宗学（特に總持寺教学）及び日本文化に及ぼした仏教の研究などの基本的研究
- 二 鶴見大学及び鶴見大学短期大学部における建学の精神の具現化及びその方法等の研究
- 三 鶴見大学大学院文学研究科との共同研究及び他の研究機関との学際的研究
- 四 研究会、講演会及び公開講座等の開催
- 五 所員の調査及び研究の成果並びに共同研究の成果、講演等の発表のための紀要類の刊行
- 六 その他研究所の目的を達成するために必要と認める研究等

(研究部門)

第四条 研究所に、次の2研究部門を置く。

一 仏教学研究部門

二 仏教教育研究部門

(所長)

第五条 研究所の所長は、鶴見大学学長の併任とする。

(所員)

第六条 研究所の教員は、専任のほか、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部の専任教員の中から所長が委嘱する。

二 研究所の職員（教員を除く。以下この項において同じ。）は、専任のほか、鶴見大学の専任の職員の中から所長が委嘱する。

(研究員)

第七条 研究員は、鶴見大学及び鶴見大学短期大学部の専任教員以外の者から、所長が委嘱する。

二 研究員の任期は一年とし、更新することができる。

(顧問)

第八条 研究所に、必要な助言を与え事業の円滑な運営を図るため、若干人の顧問を置く。

(運営委員会)

第九条 研究所に、第三条に定める研究内容等の企画、運営のため、運営委員会を置く。

二 運営委員会は、所長及び所長が委嘱する運営委員をもって構成する。

三 運営委員の任期は二年とし、更新することができる。

(経費)

第一〇条 研究所の経費は、鶴見大学の年間研究費予算その他をもってこれに充てる。

(規程の改廢)

第十一条 この規程の改廢は、運営委員会の議を経て、行なうものとする。

附 則

この規程は、平成七年四月一日から施行する。

平成十一年四月一日一部改正

仏教文化研究所 購入資料 二〇〇三年

- | | | |
|--|----------|------|
| 韓國佛教全書 | 東國大學校出版部 | 全十三冊 |
| Bibliotheca codicum Asiaticorum Center for East Asian Cultural Studies for Uresco | | 十七冊 |
| 宝慶記 道元禪師全集第十六卷 | 春秋社 | 一卷 |
| BDK English Tripitaka 46-2,104-3,104-5 Numata Center for Buddhist Translation and Research | | 二冊 |
| 江湖風月集訳注 | 禅文化研究所 | 一冊 |
| 前田惠學集 第一・二卷 | 山喜房佛書林 | 二冊 |
| 宗要光聚坊上續天台宗全書 論草四 | 春秋社 | 一冊 |
| 槐安国語 上、下卷 | 禅文化研究所 | 二冊 |
| 碧巖録一〜四 無文全集第一〜四卷 | 禅文化研究所 | 四冊 |
| 禅門抄物叢刊 | 汲古書院 | 全十五冊 |
| 瑩山禪師の研究 | 春秋社 | 一冊 |
| 常濟大師の教訓 | 鴻盟社 | 一冊 |
| 常濟大師御傳記 | 総持寺 | 一冊 |
| 常濟大師全集 | 佐々木書院 | 一冊 |
| 冠註伝光録 | 鴻盟社 | 一冊 |
| 傳光録白字辨 大圓玄致禪師垂水 | 佛教社 | 一冊 |

傳光錄獨語

三宝興隆会

一冊

伝光錄詳解 異文対拳出展溯考

三宝出版会

一冊

永沢寺本伝光錄 一、五 解題

名著普及会

全六冊